「施策・事業の見直し（試案）」について各局・区とのオープン議論

平成24年４月19日（木）

大阪市役所　本庁舎屋上（Ｐ１）階会議室

「委託老人福祉センター」

（事務局）　それでは次の議論に移ります。

委託老人福祉センターです。最初に改革ＰＴから見直しの趣旨説明をいたします。

（改革ＰＴ）　老人福祉センターですけれども、市内に26カ所整備をしておりまして、各種相談、講座、レクリエーションの場ということで提供しておるところでございます。

これも他団体と比較をいたしまして、やはり人口規模に比して多いということでございますので、基本的には見直しといたしましては、新しい基礎自治単位に２館を基準として統合していくということで、合計18館で運営をいただきたいと思っております。

実施時期につきましては平成26年度としておるところでございます。

以上です。

（事務局）　続きまして、試案に対する所管局の見解表明を願います。

（健康局・福祉局・区）　高齢者施策部長の久保でございます。

これも高齢者の方々が中心になって利用をされてる施設でございまして、高齢者の方が健康を維持して、介護が必要にならないようにするために、この場所を使いまして生きがいや社会とのかかわりを持ち続けていくということでございます。

この老人福祉センターは老人福祉法に基づいて、高齢者に対して健康の増進とか教養の向上、レクリエーションのための便宜を総合的に供与するという目的の施設でございます。教養講座の開催やレクリエーションの機会の提供を初め、地域活動拠点であります先ほど出てまいりました老人憩の家との連携によりまして、地域同士の交流、さらには生きがいづくりの牽引役となる人材の育成、各種相談、それから老人クラブ活動への支援、ボランティア活動への参画支援など、各区におけます高齢者の生きがいづくりを支援する中心的な施設として非常に重要だと私どもは思っております。

現在、原則各区に１カ所の老人福祉センターを設置しておりますけれども、他の政令市においてもほとんどの市で各区に１館以上が設置されてる状況にございます。

また、経費面で言いますと、本市では効率的な施設運営に努めた結果、利用者１人当

たりのことでございますけれども、１人当たりに係る老人福祉センターの経費につきましては、全政令市の平均額は大体711円でございますけれども、それより低い603円となってございます。

この老人センターですけれども、区内のいろんな団体、地振であったり、社協であったり、青少年指導員であったり、子供会であったりと、そういうところとも協働してスポーツ大会や文化祭などを開催したり、区の老人クラブと連携しながら単位老人クラブの自主活動に対する支援を行っております。各区によりまして高齢者の人口割合とか老人センターの利用状況も異なるということもございますので、当然、今後は各区に移管することが望ましいと考えておりますし、各区の実情に合わせて運営していくことが地域の高齢者にとっては有益であると考えております。

現在、当局としてはやはり他都市と同様に各区にそのまま設置するべきと考えておりますけれども、ＰＴ試案に出されております26年度からの実施ということで、どの館を廃止するか、どの館を存続させるか等々につきましては、これは各区の実情がまちまちでございます、どのいろんな基礎自治体になるのか、それと老人センターを今、建設されている場所、その辺も考慮しながら検討になろうかと思いますけれども、当然、各区において区民の意見も反映して、このセンターだけではなくして、区民センターとかほかの施設も含めました地域施設のあり方、活用方法などを検討していく必要があると思います。

それと26年度の統合整理ということでございますけど、そうなりますと25年度にその継続する施設と廃止する施設というのを決定する必要がございまして、地域の意見や条例改正等の必要な過程を考慮すると、なかなか公募するというその選定は非常に困難かなと、時期的な面で困難かなと考えております。

以上でございます。

（事務局）　フリー形式での議論を開始します。よろしくお願いします。

（改革ＰＴ）　大体おっしゃっていただいた方向と我々の示している中身、同じような方向性と思っております。18館ということで、これも基準として統合していくと、財源配分的に区のほうにこれもお金を渡しまして、実際には子育てプラザを充実するのか、こちらを充実するのか、それはまた区長の御判断ということで考えております。

それと、実施の時期の問題も、温水プールのときも言われておったんですけれども、基本的にはブロック化ということを念頭に、24年、公募区長で議論いただきますし、

25年早々にそういった案も示されて、大体指定管理ということになりますと25年の７月ぐらいに出していかないと26年に間に合わない、このあたりのスケジュール認識しながら進めていかなければと思っております。

（健康局・福祉局・区）　先ほど提案されたのとかかわってきますけども、老人福祉センター、今後の活用の方法の幅の問題が一つ出てくると思いますし、このＰＴ案では26を18というのにこだわっておられますけども、社会資源としての器を老人センターをどう活用するかも含めて、これは区のほうで判断されるもんだと思います。ですから同じ事業費で24館運営できたら、24館運営したらいいわけでしょうし、場合によってはもう公的施設、ある施設については公的施設でなくして、自主運営といいますか、高齢者が自主運営をされる施設も出てきてええんかな、光熱水費だけ見てあげたらええんかなという感じも個人的にはしております。

それと、これ国費が入ってるのは26館中18館、整備のときに補助が入ってますので、これについては国と一定、調整をする必要があろうかと思います。ただ、施設の広範的な活用といいますか、汎用活用については、これも区のほうでいろいろ考えていただいて、私どもも協力させていただいて取り組んでいきたいと思ってます。

（橋下市長）　これは国費が入ってるんですね。

（健康局・福祉局・区）　26のうち18館が整備の時点で。

（橋下市長）　26のうち18館。でも大分昔の話ですよね。

（健康局・福祉局・区）　そうですね、だから細かい数字は手元にございませんけど、もう返して済む話やったら返してもええんでしょうけども、２枚看板でやる方法もあろうかと思いますし、そこは柔軟にやっていったらええと思ってます。

（橋下市長）　これ、あれですよね、もういろんなこういう施設が出てくるんですけど、大体、改革室のほうが８から９ぐらいをブロックにまとめて、それを標準で施設の数とかやってるじゃないですか。急いでませんけども、８から９にこうなって、何の館があるのか、だんだんごちゃごちゃになってきて、プールだったり、これだったり、何だったりとかって、今、８から９という一つのまとまりの中で、今度、24の区長がいろいろ話をするときに、じゃあうちのところはこのプールとるから、もうこっち側のこの施設はなしにするとか、何かそういう話でまとめていくんですかね、どうやってまとめていきますかね。

（改革ＰＴ）　まずこちらのほうになると思いますけども、今、ですからその辺のいわゆ

る市民利用施設の落とし込み、例えばどの施設、どの施設の距離がどうかとか、そういうバックデータを今、整理をしておりまして。

（橋下市長）　そうですか。

（改革ＰＴ）　これまたアクションプラン編にできれば盛り込みたいと思って、今、作業進めてますけれども、手順としてはまずそういうバックデータを区長会に提供していただいて、その中で例えば築何年でありますとか、そういう情報も含めたものをお渡しして検討していただく、そういうことを考えてます。

（橋下市長）　やっぱりこれ、区長が今度、物すごい大変な作業になると思うんですけども、全体のファシリティーマネジメントの中で、じゃあうちはこれを、うちの地域はこれを重視するから、こっちはもうちょっと控えるとかいう話で、全部とる、満額とるという話よりも、負担を分かち合う話になりますので、物すごいある意味、まさに政治的な要素が強くなってくると思いますから、ちょっといろいろ改革室から出てる提案の中でどうその施設を落とし込んでいくのかというのは大変な作業です。ただ、それをやりつつ使い方についてはもう柔軟にそこを開放していくということをやりながら、住民の皆さんにも御説明をしていただきたいなと思うんですね。今までの施設、こういう対象利用者って決めてるやつを幅広げてうまくマネジメントできるかなんですけどもね。

（健康局・福祉局・区）　市長おっしゃったみたいに、単に自分とこに施設がないから、例えばこれはとってこいじゃなくて、本当に公募区長の政策として、こういう政策を取捨選択して重点施策にするんだということと、それからどうしても施設でございますんで、交通の利便性というのが最後までなってまいりますので、いわゆる合区案なりの、それから地理的、その施設が建ってる地理的問題、これも含めまして、単に９というよりも、合区案になっても違うとこからのほうがもっと便利いいやないということもございまして、合区案後の区間調整というのもあると思いますので、そんなことも含めて柔軟に考えたいと思いますけど、これも公募区長の話は私たちがあまりしても。

（改革ＰＴ）　ですから、事前の準備はもうやっていただけるような情報を、今、おっしゃっていただいたように、地図の上から落としても実は坂があったり、階段があったりする、そのあたりはもうすべてやはり区長さんのほうでということもありますし、利用目的とかどういう方が利用されるかによって距離の考え方も変わってくると思い

ますんで、我々もそういったこともやっぱりできるだけ意識はしながらデータをそろえておりますんで、またいろいろ調整しながら、その辺、進めていきたいと思います。